

# → Monthly Guide

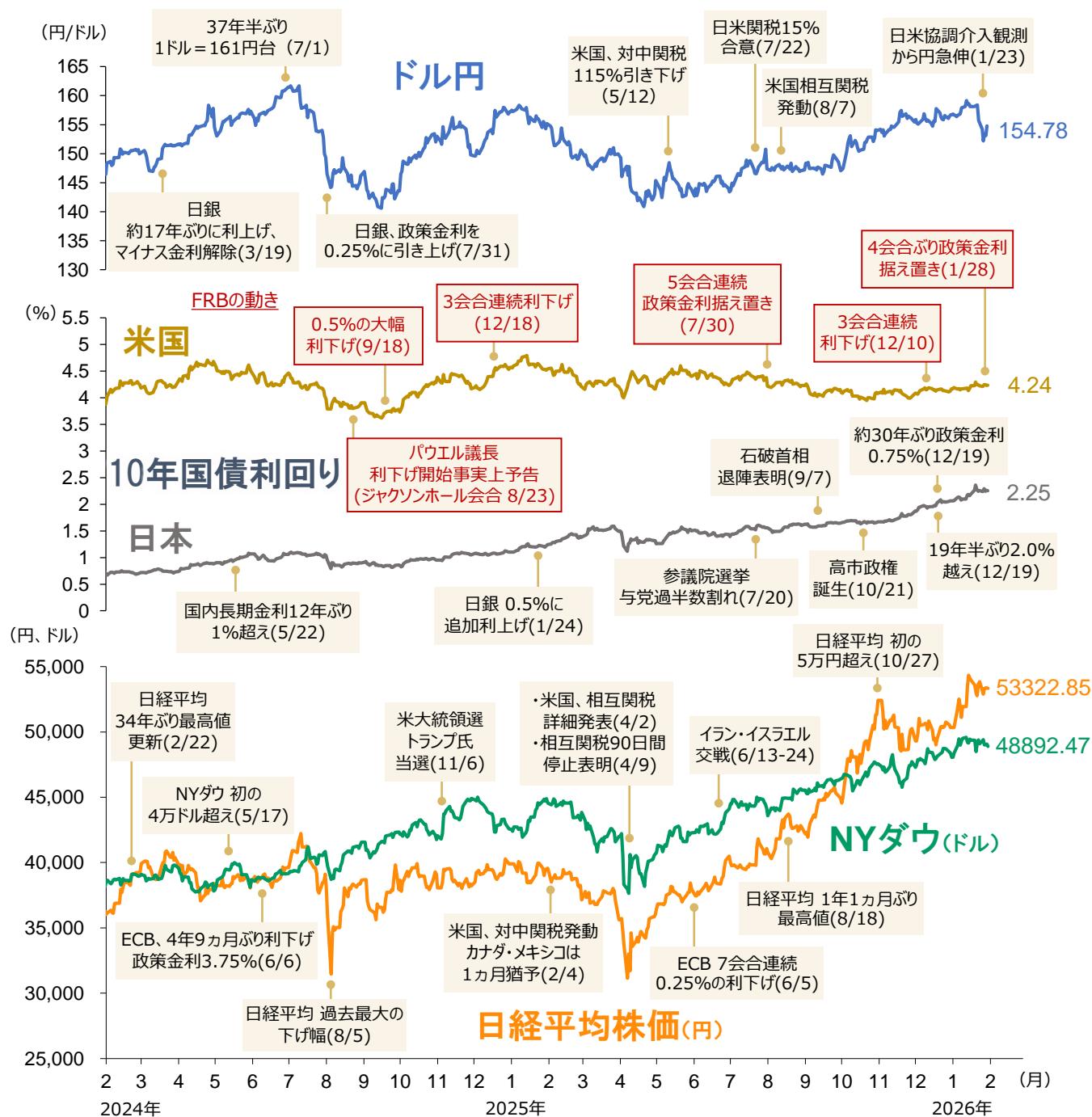
2026年  
2月号

りそなアセットマネジメントの  
YouTubeチャンネルで、  
最新のマーケット情報を  
配信しています！



## <2026年1月の主要マーケットの推移>

- NYダウ：底堅い景気と企業収益の伸びを背景に9カ月連続で上昇しました。17年4月～18年1月の10カ月以来の連騰記録です。
- 日経平均株価：成長重視の政策期待が高まり5万4千円台に高値を更新しました。月後半は円高進行を受け伸び悩みました。
- 米10年国債利回り：小幅上昇、当面利下げ見送りが示唆されたことや日本の金利上昇が影響し一時4.3%台に上昇しました。
- ドル円：円が買い戻されました。日米当局による為替介入が警戒され、1ドル=152円台を付ける場面がありました。



※ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

※グラフ内の数値は直近月末値(終値)

メインシナリオ：世界景気の拡大局面は継続、株式が債券に対し優位な投資環境

サブシナリオ：雇用軟化が続く一方、インフレ再燃懸念で利下げが進まず米国景気が減速

リスクシナリオ：米国が景気後退に陥り、債券が株式に対し優位な展開に

## 世界景気の先行きは「りそな景気先行指数」で見極めます



### りそな景気先行指数とは？

世界景気の転換点をいち早く見極める分析ツールとして、りそなが独自に開発した世界景気の先行指標です。

- 景気に対して先行して動くとされる国内外の12の指標を選定。それぞれの項目が3ヵ月前と比較して改善を示す指標の割合を算出した指標です。●この指標が50を上回れば（半数以上の系列が改善していれば）景気は拡張局面、50を下回れば後退局面と捉えます。●累積DIは各月のりそな景気先行指数から50を引いた数値を累積したものです（1992年5月=0）。

## ● 注目指標 ● 金(ゴールド)を投資資産に組み入れる意義を考える

世界の分断が懸念される中、『金』が資産として注目されています。金は「無国籍の通貨」と呼ばれ、発行体の信用リスクがないため、米ドルに代わる安全資産として各国の中央銀行が保有を増やしています。また「有事の金」とも言われ、国際的な紛争や金融危機など不透明感が高まる局面で株式等の資産から金に資金が流入する傾向があります。

各資産と金の値動きの相関を見ると、国内株式・債券と金の相関係数(右図①)はゼロに近く、また、先進国株式との相関係数は、金(②)が国内株式(③)や先進国債券(④)に比べて低くなっています。国内株式・債券や先進国株式と連動しにくい金を併せ持つことで、分散投資の効果が期待されます。

実物資産である金はその希少性からインフレが続く経済環境でも価値が保たれやすいとされます。金の2000年～2025年の価格上昇率は年率12.8%と、主要国のインフレ率を大きく上回っています。

不安定な世界情勢や物価上昇に備え、ポートフォリオに金を組み入れることは長期的に資産を守るために手段の一つとして有効と考えます。

### 内外株式・債券と金の相関係数

	国内 株式	国内 債券	先進国 株式	先進国 債券	金
国内 株式	1.00				
国内 債券	-0.24	1.00			
先進国 株式	③ 0.72	-0.14	1.00		
先進国 債券	0.41	0.01	④ 0.59	1.00	
金	① 0.15	① -0.06	② 0.21	0.38	1.00

※ 金：米ドル建て金スポットレートを円換算

※ その他の資産については、4ページのグラフと同じインデックスを使用

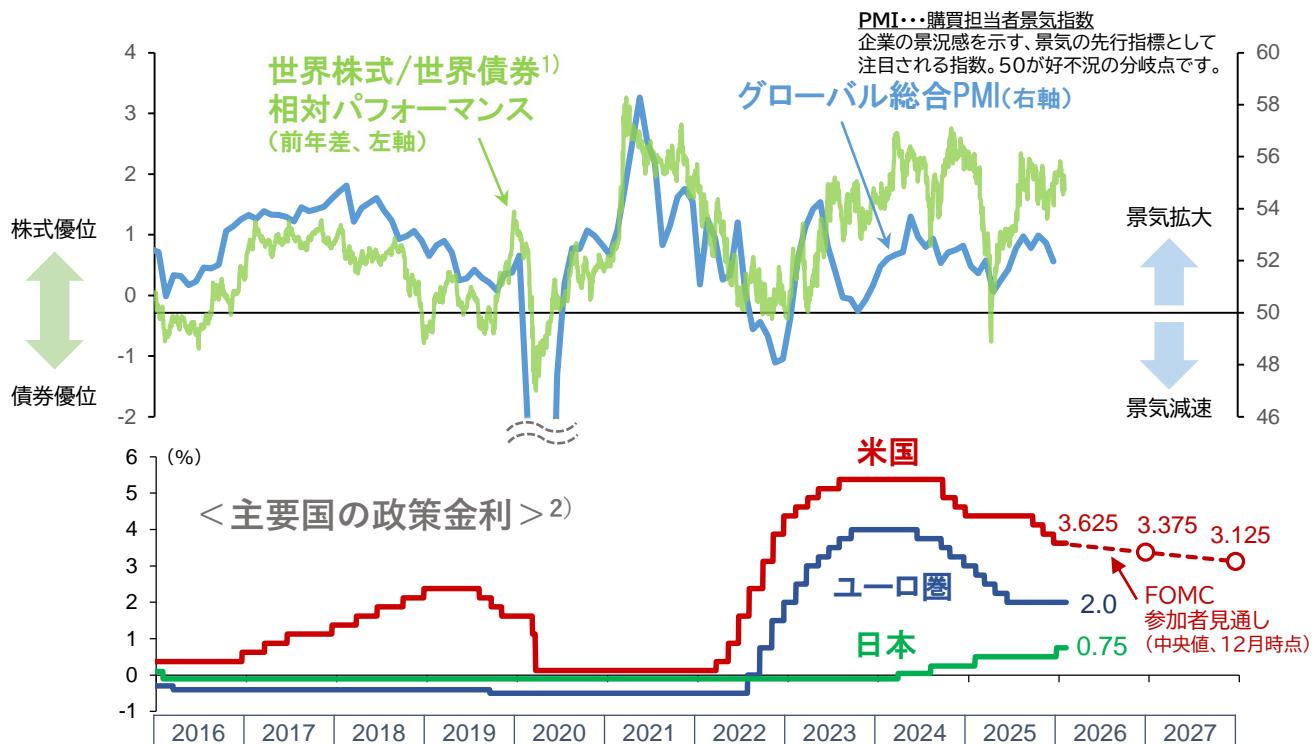
※ 各資産の月次リターンを用いて計測（期間：2000年1月～2025年12月）

※ ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

# 当面の見通し

## “成長”と“緩和的金融環境”で株式などの成長資産には追い風の投資環境

- 景気先行指標のグローバル総合PMIは好・不況判断の分岐点となる50を明確に上回り、世界景気の拡大継続を示唆する一方、金融環境は米国が利下げ継続姿勢を維持しており、一段の緩和が見込まれます。“経済成長”と“緩和的金融環境”的組み合わせで、株式が買われやすい投資環境が続く見通しです。
- ただ、米国をはじめ各国のPER(株価収益率)が過去平均を上回る割高な状態にあり、インフレ再加速や地政学リスクなど想定外の事態発生時には、価格変動率が高まりやすい点に留意が必要です。安定した運用成果を目指す為には、値動きの異なる資産・地域・業種への国際分散投資が有効と考えます。



1) 世界株式：MSCI-World 指数（配当込み、現地通貨ベース）、世界債券：FTSE世界国債インデックス（現地通貨ベース）

2) 米国：FFレート誘導金利（中央値）、ユーロ圏：中銀預金ファシリティ金利、日本：2024年3月19日までは日銀当座預資金利（マイナス金利は日銀当座預金の一部に適用）、2024年3月21日以降は無担保コール翌日物金利

※FRB、ブルームバーグ、Haver Analyticsの公表データ等に基づき、リソナアセットマネジメントが作成

## 金融環境



1月FOMCで、4会合ぶりに政策金利を据え置きました。前回の声明文にあった雇用の下振れに関する文言を削除し、景気判断を上方修正しました。



ユーロ圏経済の先行指標となる総合PMI1月速報値は51.5と景気拡大領域を維持、インフレ率は12月+1.9%とECBの見通しに沿って推移しています。



日銀は1月会合で政策金利を据え置きました。展望レポートでは、物価見通しが上方修正され2%物価目標実現の確度が高まったことが示されました。

## ● 今後の注目点 ●

利下げ再開は、トランプ大統領が指名したケビン・ウォーシュ氏が議長に就任し最初の会合となる“6月FOMC”と予想されます。

2月理事会では5会合連続の政策金利据え置きが予想されます。米国のグリーンランドを巡る関税が不確定要因として残ります。

追加利上げについては4月会合が有力視されます。円安が進行した場合、3月会合に利上げが前倒しされることも考えられます。

## ● 2月の重要イベント ●

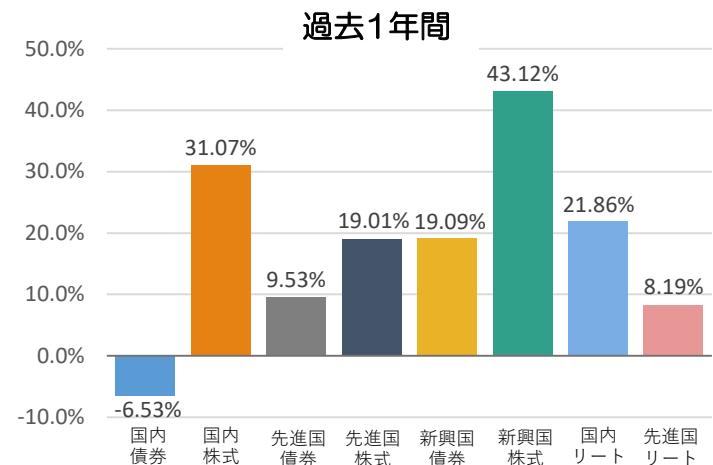
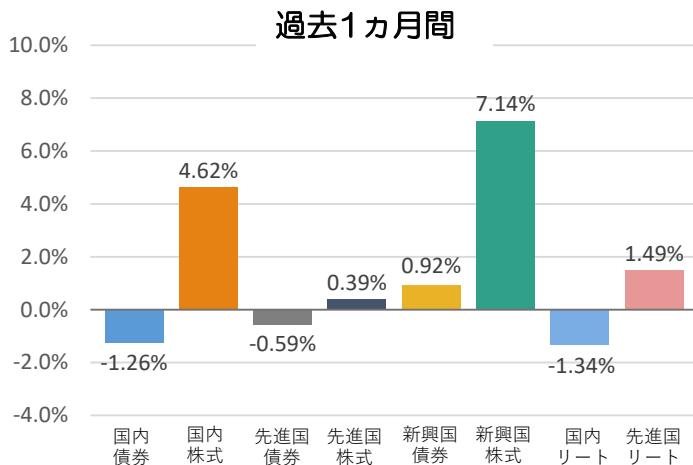
3日	豪州	金融政策決定理事会
5日	欧州	ECB(欧州中央銀行)理事会
5日	英国	中央銀行金融政策委員会

6日	米国	雇用統計
8日	日本	衆議院議員選挙 投開票
16日	日本	2025年10-12月期GDP (速報)

1月末基準

# 各資産別 月間騰落率と振り返り (円換算ベース)

- ◆国内株式は選挙後の成長戦略推進への期待から続伸、新興国株式は半導体需要拡大や資源高を追い風に続伸しました。
- ◆国内・先進国債券は下落しました。ドル円相場は、日米協調介入観測を受け一時152円台まで円高が進行しました。



\*ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成。※国内債券:NOMURA-BPI総合、国内株式:東証株価指数(TOPIX、配当込み)、先進国債券:FTSE世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)、先進国株式:MSCI-KOKUSAI指数(配当込み、円換算ベース)、新興国債券:JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円換算ベース)、新興国株式:MSCIエマージング・マーケット指数(配当込み、円換算ベース)、国内リート:東証REIT指数(配当込み)、先進国リート:S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)

## 国内債券

10年国債利回りは、前月末比+19bpの2.25%まで上昇しました。消費減税の検討が与党の選挙公約に掲げられたことで財政悪化が意識され、30年・40年国債利回りはそれぞれ発行開始以来最高の3.9%、4.2%まで一時上昇しました。日銀1月会合後は、追加利上げ観測の強まりから売られました。

## 先進国債券

米10年国債利回りは小幅上昇しました。FOMCでは雇用の下振れリスクとインフレの上振れリスクが再び均衡化しているとの見方が示され、早期利下げ期待が後退しました。欧洲では、フランスが26年予算成立の目途が立ち、同10年国債利回りは月初の3.6%超から3.4%台前半に低下しました。

## 新興国債券

新興国債券は円建て、現地通貨建て共に続伸しました。ルピー安が続くインドがマイナスとなる一方、中央銀行が次回3月会合で利下げを示唆したブラジルが上昇しました。

## 国内リート

東証リート指数は10ヵ月ぶりに反落しました。月央までは4年ぶりの高値をつけるなど堅調を維持しましたが、長期金利が一段高となつたことから月末にかけマイナスに転じました。

## 国内株式

総選挙の結果、経済政策の推進力が高まるとの期待などから、日経平均株価は続伸、東証株価指数(TOPIX)は11ヵ月連続で上昇し、それぞれ最高値を更新しました。業種別ではAI(人工知能)関連株物色の広がりを受け非鉄金属、機械が大きく上昇したほか、金利先高観を背景に銀行業の上昇が目立ちました。

## 先進国株式

米国はグリーンランド領有を巡る欧洲との対立から一時的に下落する場面がありました。個別企業の好決算などを手掛かりに持ち直し、NYダウ、S&P500指数は揃って最高値を更新。NASDAQ総合指数は3ヵ月ぶりに反発しました。欧洲では、英FT100指数が最高値を更新しました。

## 新興国株式

新興国株式は上昇しました。資源高の恩恵等が評価され海外資金の流入が続きました。半導体株の比重が高い韓国・台湾が続伸、インドは通貨安が響きマイナスに作用しました。

## 先進国リート

先進国リートは円建て・現地通貨建て共に反発しました。国別では英・独など欧洲主要国、業種別では、AI(人工知能)関連需要の増加を背景にデータセンターの上昇が目立ちました。

<当資料に関するご注意事項>

○当資料はりそなアセットマネジメント株式会社が作成した投資環境等に関する情報提供資料であり、販売会社が投資勧説を使用することを想定して作成したものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの中見解に基づくものとは限りません。○当資料の作成にあたり当社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示されている当社の見通し、予測、予想、意見等(以下、見通し等)は、それぞれ作成時点のものであり、将来予告なしに変更されることがあります。また当社の見通し等は、将来の景気や証券価格等の動きを保証するものではありません。取引時期などの最終決定は、お客様自身の判断でなされるようお願いいたします。○当資料に関わる一切の権利はりそなアセットマネジメント株式会社に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りします。

<ファンドの設定・運用> ■りそなアセットマネジメント 商号等/りそなアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2858号 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会